

平成五年(ワ)第九〇号

上

申書

被告人

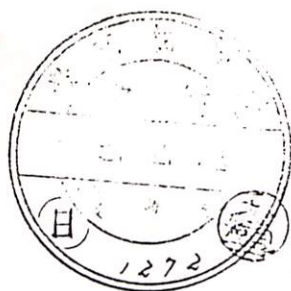
廣野秀樹

右の者に対する傷害準強姦被告事件について、左記のとおり上申します。

平成五年一月二十四日、

弁護人

菱川雅



第三小法廷

最高裁判所

第三小法廷

御中

記

193

甲第二八号証

本日提出いたしました「上告趣意書」は、比較的長いものになっておりますが、私といたしましたは、主として量刑の点をご考慮願えたら、と考えている次第であります。

すなわち、被告人としては、行為の際には、これほどまでに重大な傷害結果を生ぜしめるものとは思っていなかったものであります。また、熱愛する人に自らの手で重大な傷害を負わせてしまったことから、被告人は、犯行後、心理的に極度に混乱したことがうかがわれます。

したがって、結果の重大性や責任転嫁するような被告人の態度も、決して、被告人の悪性を示すものではないと考えます。むしろ、予想外の重大な結果が生じてしまったのは不運であつたとすらいえます。そこで、被告人が初犯であることも考慮すると、もう少し寛大な量刑をしていただけないものか、と考えるのです。